

編 集 後 記

定かではないが2011年の東日本大震災の時にも編集後記を書いた記憶がある。今回の論文を読むと、以前に比べて色彩豊かな図表が目立ち、視覚的にもイメージが入り易く、専門外の事柄でも非常にわかり易くなっている。地域医療の末端にいて、専門ではない生活習慣病の方々との付き合いも次第に多くなり、フィットネスクラブを併設している筆者は、島根大学疾病予知予防プロジェクトセンター (CoHRE) の試みを非常に興味深く読んだ。2006年の掛合町の住民健康調査から始まり、既に11の地区に及んでいるとのことで、5000人以上のデータが集積されているが、残念なことに70歳弱の高齢者が主であるということで、生活習慣病の予防を考えると今後4-50代住民のデータ集積が望まれる。又ソーシャル・キャピタルという概念も初めて知ったのであるが、地域社会や職場等での人間関係の持つ価値を表す言葉であるとのことで、人々の幸福感や安心感などのメンタルヘルスと関連性があると考えられ、昨今話題になっている職場でのストレスチェックと同様に、地域社会での住民のストレスチェックとして役立つ可能性があるかと期待される。最後になるが、4月14日夜から始まった熊本地方の大地震は、震度1以上の揺れが既に900数回を超えており、いつ終息するのかわからない状況に胸が痛む日々を過ごしている。日本中を揺るがし、2週間を経過して少しずつ復興に向けて動きはじめているが、ソーシャル・キャピタルの高い地域の方が、健康状態のみならず、危機脱却時の精神衛生にも大きな影響を及ぼすのではないだろうか？

2011年の東日本大震災も6年を経て未だ復興途上であり、その記憶も消えないまま今回の熊本を中心に起こった大地震であるが、あらためて天災への人間の無力さを痛感するものであり、島根も原発があり、さらに全国に先駆けて超高齢化社会へと進んでいる県でもあり、今後ソーシャル・キャピタルの研究が発展して、地域の社会的環境の整備が充実していくことを願っている。この36巻1号が手元に届く頃には熊本地方の大地震が終息していることを切に願ってペンを置くことにする。

(H.S)

島根医学編集委員

葛尾信弘， 貴谷 光， 秦 公平， 児玉和夫， 森本紀彦，
浅野博雄， 沖田旺治， 齊藤洋司， 佐藤比登美， 小林祥泰，
井川幹夫， 菊池 清

島 根 医 学

平成28年3月31日発行

発行者 島 根 県 医 師 会
松江市東奥谷町
編 集 編集者 葛尾信弘
発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松陽印刷所